

成分名	セラセフェート
英 名	Cellulose acetate phthalate
CAS No.	9004-38-0
収載公定書	日局 EP NF
A TOXNET DATABASEへのリンク	https://chem.nlm.nih.gov/chemidplus/rn/9004-38-0

投与経路	用途
経口投与	結合剤、コーティング剤、賦形剤、崩壊剤、防湿剤、溶解補助剤

1. 単回投与毒性

2. 反復投与毒性

3. 遺伝毒性

4. 癌原性

5. 生殖発生毒性

① Cellulose acetate phthalate の 500, 1000 及び 1500 mg/kg/day を妊娠ラット(Wistar-Imamichi) の器官形成期を通して 6 日間連続経口投与して胎仔の外形および骨格系に及ぼす影響ならびにその生後発育に及ぼす影響を検討した。致死、催奇形作用ならびに発育抑制作用は認められなかった。さらに生後 8 週まで育成観察したが、行動、体重、哺育率、雌では膈開口日、雄では精子形成に対照群と差は認められず、その他解剖学的変化もなかった。1) (Suzuki et al., 1975)

② Cellulose acetate phthalate の 500, 1000 及び 2000 mg/kg/day を ICR-JCL 系マウスの妊娠 7 日より 6 日間連続経口投与し、胎仔の外形および骨格系に及ぼす影響ならびにその生後発育に及ぼす影響を検討した。母動物の体重増加、摂餌量、平均着色数、胎仔死亡率、生存胎仔平均体重、平均産仔数に影響はなかった。また、胎仔の外形異常および骨格異常の発生頻度にも対照群を比べて有意な増加はみられなかった。さらに、出生仔を離乳期まで観察したが死亡率、体重、行動ならびに外形および内臓異常の発生頻度に薬物の影響はみられなかった。2) (Watanabe et al., 1975)

6. 局所刺激性

7. その他の毒性

9. ヒトにおける知見

引用文献

1) Suzuki Y, Hirose K, Takahashi A, Takayanagi M, Maita K, Yamashita K, et al. Teratological study of cellulose acetate in rats. *Iyakuin Kenkyu* 1975; 6: 41-8

2) Watanabe N, Fujii T. Teratological study of cellulose acetate phthalate in mice. *Iyakuin*

IPEC JAPAN SAFETY DATA